

◆ 2023 年 度 活 動 報 告 シ ー ト ◆

団体名：NPO法人 いろいろ生きものネット埼玉

26A-36

代表者：代表理事 脇坂 純一

URL : <https://iinenet101.jimdofree.com/>

1. 活動が必要とされた状況

①里山保全及び外来植物の調査・除去活動：狭山丘陵の保全活動は、継続的な取組が必要。外来植物市民調査も継続が重要。

②生物多様性保全の普及啓発活動：環境保全活動を促すためには、継続的で効果的な情報提供と動機づけが求められる。

2. 活動の内容（実施時期、参加人数、活動内容など）

(1) 狭山丘陵の里山保全及び外来植物の除去活動

- ・ 里山保全活動は、年6回下草刈り、枯損木の伐採などを実施した。カシノナガキクイムシの被害は大きくなってきている（参加者3~8人）
- ・ 原市沼川の特定外来生物オオフサモの除去活動は、様子を継続的にモニタリングした。（参加者のべ5人）

(2) 生物多様性保全の普及啓発活動

- ・ 6/16に「かいぼりによみがえる水辺の生物多様性」をテーマに第7回サイエンスカフェをオンラインで開催した。（参加者38人）
- ・ 11/4に「植物学者牧野富太郎の世界」をテーマに第8回サイエンスカフェを会場・オンラインの併用で開催した。（参加者60人）
- ・ 11/11に「コウノトリ見学会・セミナー」をコウノトリを育む会の協力をいただき、鴻巣市で開催した。（参加者30人）
- ・ 2/10に第10回生きものフォーラムを「団体間の情報共有や連携を考える」をテーマに加須市で開催した。（参加者50人）
- ・ 6/2にポケットブック「エコ散歩のすすめ～生きものから学ぶ環境～」を発行した。散歩の参考ツールとして、生物多様性理解の一助にしていきたい。



3. 活動の成果

- ①緑の森博物館の里山保全活動に協力ができた。
- ②コウノトリの生態の理解促進を図ることができた。
- ③フォーラムでは環境団体の交流を図ることができた。
- ④「エコ散歩のすすめ」を発行し、広く配布できた。



4. 今後に残された課題

①ナラ枯れ病の蔓延の中で安全を確保しつつ持続的な里山保全活動を続けていくこと。効果的な勧誘により新たな里山保全活動の参加者を確保すること。

②当団体の役割である多角的な情報発信とコーディネート役を進めるため、自らの活動の強化（会員拡大、実践・研究・モニタリングの深化、活動分野の多角化など）を図っていくこと。